2014年度秋学期
早稲田大学教育・総合科学学術院教育会　主催

高校中退と進路指導

―中退者に対する支援の在り方を考える―

◆企画趣旨

高校中退に進路指導はどのように機能するのでしょうか？
「中退防止」、「社会とつなぐ」という二つの観点から考えます。

◆開催日時

2014年12月13日(土)
12:30受付開始
[13:00-16:30]
※入場無料・事前申込
定員100名
（申し込みが定員に達した際はお断りさせて頂く場合がございます）

◆会場

早稲田大学
（早稲田キャンパス）
14号館 403教室

早稲田大学公式ホームページ
交通アクセス

◆講師紹介

厚生労働省職業能力開発局能力評価課長
伊藤正史氏

NPO高卒支援会代表
杉浦孝宣氏
※併せて中退経験者とその保護者の方にもお話をいただきます

NPO青少年自立援助センター学校連携担当
五十嵐裕紀氏

都立青井高等学校主幹教諭
浦部ひとみ氏

◆コーディネーター
早稲田大学大学院教職研究科　研究科長　三村隆男

◆申し込み・お問い合わせ先

早稲田大学教育・総合科学学術院教育会　企画担当
waseda.kyoiku2014@gmail.com
（右のQRコードから読み込めます）

氏名・所属・連絡先を明記しメールで申込み

◆講師の皆様から

伊藤正史　氏
（厚生労働省職業能力開発局能力評価課長）

若年者雇用対策係長時代に、JILPT、文部省（当時）と連携した高校中退者の追跡調査を実施。ハローワークにおける高校中退者就職支援、及び各学校等との連携スキーム整備等に取り組みました。キャリア形成支援室長時代は、「地域若者サポートステーション事業」の枠組みでの高校中退の未然防止、学び直し支援を含めたモデル事業を立ち上げました。現在は、技能検定の高校（特に工業高校）の教育目標としての活用促進、若者への技能の魅力発信、サービス分野における実践的な能力評価の仕組み整備を通じたキャリアアップの機会提供など、幅広く取り組んでいます。

杉浦孝宣　氏
（NPO高卒支援会代表）

公立高校転編入学制度の全国化により引きこもりを未然に防ぐ！というミッションで活動しております。2008年より、ネットで無料教育相談を開始したところ、全国には東京都と同様の公立高校転校制度が無いということに気がつきました。高校中退者5万人のうち60%は高校一年生です。当会利用者の多くが中退理由に不本意入学を挙げています。現在は、都立の補欠募集を活用し、転学する事により、不登校中退問題の解決を目指しております。こうした現状と解決法の一つがここにある事を認識していただき、都立の補欠募集を充実させ、公立高校における転校制度全国化を一緒に目指そうではありませんか？

五十嵐裕紀　氏
（NPO青少年自立援助センター学校連携担当）

定時制高校・チャレンジスクール・重点支援校など5つの高校において訪問支援員として活動しています。生徒の相談から得た情報を整理し、先生方と共有・連携しながら最適な支援ができるように取り組んでいます。高校は自分の進路について考え始める時期です。しかし、自分の悩みを相談できず抱えこんでいる生徒や、進路についてハッキリとした考え方が分からず悩んでしまう生徒が数多くいます。そんな生徒にとって先生や保護者（縦の関係）でもない、友人（横の関係）でもない、ちょっと社会人の先輩（斜めの関係）として、悩みを聞いたり、今の社会環境や就活状況を伝えながら、支援に携わっております。

浦部　ひとみ　氏
（東京都立青井高等学校主幹教諭。教科：英語）

東京都高等学校進路指導協議会事務局長。全国高等学校進路指導協議会就職指導研究委員会委員。東京都教育委員会キャリア教育開発部会委員。
定時制高校にて15年勤務の後、淵江高校、足立高校を経て平成25年度より現職。東京都教育委員会キャリア教育開発部会にて、高等学校におけるキャリア教育および「人間としての在り方生き方教育」の実践研究を進める。高校と教育委員会、ハローワーク、サポートステーション、NPO、企業等との連携・協力について関心を持つ。『進路アドバイザー検定公式テキスト2014』（大学新聞社）の編集、実教出版「就職試験のための面接＋作文」を執筆。

◆当日の流れ

12:30　受付
13:00　【第一部】各講師による基調講演
　　「中退者支援に対する取り組みの実際と課題」
14:40　【第二部】質問票への回答
15:00　【第三部】パネルディスカッション
15:40　【第四部】分科会・意見交換会
16:10　【第五部】分科会の報告・まとめ

分科会は講師の皆様を囲み楽しく議論できる場です。ご参加をお待ちしております。

◆企画者の言葉

高校中退をする生徒の数は、毎年全国で5～6万人、率にして1～2%存在します。退学の理由は、学業不振や不適応、進路変更など多岐に亘っています。彼らに対し、どのような進路指導が考えられるでしょうか。中退に関わる講師の皆様のお話を聞く中で、実例に基づいた、多様な中退支援の在り方について考えていきたいと思います。